

【報告事項】

1. 第 1 回「東日本大震災研究交流会」の開催

- ・ 2015 年 3 月 15 日(日)に明治学院大学で開催された。
- ・ 社会学のさまざまな研究チームの報告に加えて、社会心理学など関連領域からの報告があり、多彩な参加者による活発な討論が行われた。報告書の刊行が進められている。<http://www.gakkai.ne.jp/jss/20150315.pdf>

2. 船橋晴俊先生を偲ぶ会の開催

- ・ 2015 年 7 月 12 日(日)に法政大学市ヶ谷キャンパスで「<シンポジウム>社会変革と学問—船橋晴俊先生の遺志を—」が開催され、多くの市民と研究者が参加した。

3. 震災科研プロジェクト『災後の社会学』No. 3の刊行(2015年3月末)

- ・ 科学研究費補助金(基盤研究A)「東日本大震災と日本社会の再建—地震、津波、原発震災の被害とその克服の道」(H24~27 年度)研究代表 : 加藤眞義 (福島大学)

4. 震災科研プロジェクト『災後の社会学』No. 4 の原稿募集について (2016 年 3 月刊行)

- ・ 震災科研プロジェクトメンバーに限らず社会学会会員から広く受け付ける。
- ・ 予算執行上、事前にエントリーが必要 ; 日本語のみ ; 2015 年 12 月 25 日エントリー締め切り
- ・ 原稿締め切りは 2016 年 1 月末
- ・ 問い合わせ先 : 加藤眞義 (福島大学) mkato@ads.fukushima-u.ac.jp

議案 :

1. 震災問題情報連絡会の引き継ぎ

- ・ 東日本大震災の発生から 4 年半が経過したが、原発避難問題は未だ解決しておらず、津波被災地における復興についても社会学が取り組むべき課題が山積している。東日本大震災後に立ち上がった「日本社会学会東日本大震災メーリングリスト」を基盤とした「震災問題情報連絡会」は、情報交換のネットワークとして、新たな研究活動委員会においても、田中重好副委員長を中心として継続する。

2. 第 2 回「東日本大震災研究交流会」開催について

- ・ 2015 年度末に開催予定。

3. 震災科研プロジェクトの申請について

- ・ 震災科研プロジェクトは、震災原発に関連する社会学研究者によるさまざまな研究プロジェクトのプラットフォームとしての役割を果たしてきており、今後も復興のプロセスを検証する形で継続することが求められる。
- ・ 田中重好(名古屋大学)を研究代表者とする。
- ・ 10 年後の災害からの復興をめぐる議論を、国家・行政、市民社会、津波被災地、原発被災地、理論の立場から、5 グループに分けて研究を進める。

- ・ 研究活動は、研究交流会の開催、日本社会学会でのシンポジウムの企画やテーマセッションの開催、毎年度研究報告書（『災後の社会学』）を編集・刊行する、5つの小グループでの研究会の開催、文献データベースの作成、研究活動のネット上での公開、国際シンポの開催、各グループごとの本の出版（可能な限り英語版要約をつける）などとする。
- ・ 研究交流会への参加ならびに報告書への寄稿は、H24～27年度の震災科研と同様に、日本社会学会の会員に広く呼び掛ける。研究交流会は、環境社会学会、地域社会学会、都市社会学会などの関連学会にも参加を呼び掛ける。

4. その他

- ・ 震災原発関連研究のメタデータの整理は、今年度末までは、震災科研プロジェクトのデータベース担当の岩井紀子が担当する。